たかぎ 議会だより

No.108 令和7年1月

前号までの議会だよりはこちらから▶

喬木村発足150周年 1875-2025

美し郷（うま） 喬木150周年！今、新たなステージへ!!

P2 年頭あいさつ・新選挙管理委員
P3 定例会ハイライト
P4.5 一歩からの歩み
P6 総務産業建設常任委員会
予算決算常任委員会
P7 一般質問
P8 議会かつどう・アレ・これ
P9 社会文教常任委員会
P10.11 特集　上水道
P12 この村でがんばってます

発行　長野県喬木村議会　編集　議会だより編集委員会　発行責任者　後藤章人　印刷　龍共印刷株式会社

年頭のごあいさつ

議長　後藤章人

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、議会に対し日頃より多くのご意見、ご助言をお寄せいただき深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、先ず議会においては、議員定数の削減という非常に大きな動きがありました。令和3年６月の改選で２人の欠員が生じ、７か月後の補選においても１人の欠員を埋めるにとどまり、結果、定数12人のところ１人欠員のまま任期最後の年を迎えることとなってしまいました。２回の選挙で連続して欠員が出たという事実から「定数削減」という考えが浮上してまいりました。村内16地区で行なった懇談会、議会モニターの方々との懇談会等、あらゆる機会に村民の皆様のご意見を聞き、また議員間討議を重ね、その結果、令和７年６月の改選より、定数は10人という結論に達しました。住民の皆さんからは「２期連続無投票を鑑み削減したらどうか」「11人という選択肢はないのか」「現状の12人でよい」「地区としては、判断がつかない。議会内で議論を深めるべき」など、多くのご意見をいただきました。議員間においては、「削減により、議会が弱体化する。住民の関心も薄くなり、民意の反映も落ちる」「自治会の役員の維持も厳しくなってきている中で、新たな候補の擁立も不透明な状況。人口減少社会を見据えた形づくりが必要」など、多くの意見が出されました。最終的には、議員間討議で定数を10人とする方向を決め、令和６年第３回定例会において定数条例の改正案が提出され可決されました。ここに至るまで、大変長い道のりであったと感じました。

さて、喬木村はこの１月、村発足150周年という大きな節目を迎えます。昨年５月の記念植樹を皮切りに小平奈緒さんの講演、イルミネーションの展示等、この間喬木村を訪れる人も多く、中でも９月28日の記念式典・記念イベント開催日に会場を訪れた人は１万人を越えていたと聞きました。喬木にもこんな力・勢いがあったんだと嬉しく思いました。150周年の後は、また1歩ずつたしかな歩みで将来に向かっていけたら…と思います。

結びに当村にとりましても、災害のない穏やかな1年であることを願うとともに皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

令和6年 第1回 臨時会

10月10日に第１回臨時会が開会され議案２件をそれぞれ審議のうえ全会一致で可決し、閉会した。

議案第50号　工事請負契約の締結について

目的：村道６号線　（九十九谷線）舗装修繕工事
契約金額：99,390,193 円（税込）　　契約先：飯田市　小池建設株式会社

議案第51号　令和6年度喬木村一般会計補正予算（第3号）

要旨：県支出金を財源とした衆議院議員選挙費用 600 万円の追加補正

新選挙管理委員会 委員の皆さん

任期：令和６年12月22日～令和10年12月21日

選挙管理委員長
小川両平
松澤　　清さん

阿島里原
仲田　　茂さん

伊久間14
吉川　幸明さん

氏乗貸又
多田　和則さん

忙しい人でも 10分でわかる！

12月定例会 ハイライト

令和６年第４回定例会の会期は、12月５日から18日までの14日間

可決した議案

消費生活センター　県のセンター再編により、飯田市との協定に運営業務を加える

刑法一部改正　による条例の一部改正（条文中の懲役または禁固を、拘禁刑に改正）

福祉医療給付条例　項ズレを改正

情報通信施設　休止・再開の手続きが飯田ケーブルテレビに移管されているため条文から手数料の規定を削除

財産取得　胡桃沢建設発生土受入地用地を整備するための用地の取得

村からの報告

斑状歯の治療費　に対する給付（2名の方）

上位法改正　による下水道条例の一部を改正（大腸菌群数→大腸菌数）

可決した主な補正予算 ¥

一般会計　リニア基金　積み増し、新規就農者補助金増額、大和知村道７号・阿島北112号線測量設計、高校生医療費（村単）増額

介護保険特別会計　制度改正に伴うシステム改修経費等

下水道事業会計　旧中央保育園宅地造成地　公共桝取り出し

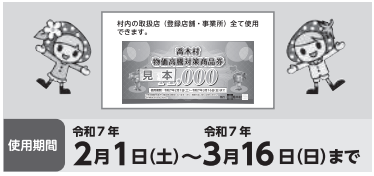
国民健康保険特別会計　保険給付費の増額、**後期高齢者医療特別会計**　本算定による増額

☞物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業（低所得世帯支援分）　1,992万円

対象世帯当たり３万円×570世帯、当該子育て世帯の子ども１人当たり２万円×80人

☞物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業　4,102.7万円

1．介護サービス事業者等物価高騰対策　72.6万円
　入所系（1施設）　１８万円＋（９千円×定員５０人）
　通所系①　２万円＋（３千円×送迎者１２人）　通所系②　２万円
　配食系（1事業者）　２万円
2．保育園給食等負担軽減　100万円
　たかぎ保育園　90万円　南保育園　10万円
3．農業者経営支援　430万円
　認定農業者　５万円×４６人　その他農業者　１万円×２００人
4．畜産飼料高騰対策　460万円
　対象期間飼料代の1/4（上限100万円）７農家
5．商工業者物価高騰対策　1,000万円
　事業主＋従業員×１万円（上限50万円、１回限り）
6．物価高騰支援商品券発行　1,890.1万円
　商品券　１人当たり3,000円（福祉施設入所者を除く全村民）
7．学校給食等負担軽減（小中学校　賄材料費）　150万円



発議

議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について（議員の期末手当について国準拠に応じた条例とするため）　可決

一歩から

1878年（明治8年）
阿島村・小川村・伊久間村・富田村・加々須村5ヶ村合併 喬木村発足

1889年（明治22年）
町村制施行
村議会選挙
（定員18名）

1893年（明治26年）
阿島区分村
村議会で否決

1906年（明治39年）
人口 下伊那郡下最多（7,218人）

1918年（大正7年）
氏乗山問題

1950年（昭和25年）
中学校統合問題により議員総辞職

1959年（昭和34年）
地方財政法の財政再建団体の適用を受ける

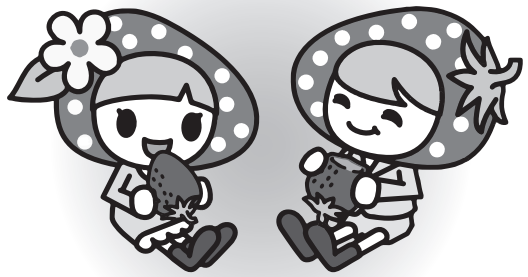
1961年（昭和36年）
議会、村長不信任議決
村長、議会解散を命ずる

1964年（昭和39年）
財政再建 完了

1987年（昭和62年）
全村水道 完成式

1989年（平成元年）
村発足115年
記念式典 開催
（日本一の和傘完成）

1997年（平成9年）
運動公園 竣工



令和6年第4回定例会佐藤文彦議員一般質問より

質問　自立を選択後 20 年経つが、ここまでの総括を伺う。

【 村長答弁より 】

自立を選択後 20 年間の総括としては、生活基盤が整い、豊かな環境と子育て支援や福祉の充実した村として、村外から一定の評価をいただいている。一方で、当時の自分でできることは自分で、近所で助け合ってできることは地域で、といった村民の皆さまの自立に向けた高い意識に支えられて、これまではやってこられましたが、現在急激な人口減少による少子高齢化という大きな課題に直面し、行政にあまり関心が無い、地域づくりに関心が無いといった傾向が、住民の皆様に見られるような気がしており、これからの行政運営は村に任せておけばいいという風潮に危惧を感じている。今後も第５次喬木村総合計画の将来像である「人が輝き未来につながる美し郷喬木」実現のために、住民の皆さまに、もう一度高い志を持って取り組んでいただくことをお願いし、持続可能な村づくりに邁進していきたいと考えている。

の歩み!!

美し郷（うま） 喬木150周年！
今、新たなステージへ!!

喬木村発足150周年記念宣言 6番

私たちは、人と人、地域と地域のつながりを大切に、
住民参加による協働の村づくりを進め、
誰もが住みやすく心地よい村を実現します。

2004年（平成16年）

飯田市・上村・南信濃村との合併の賛否を問う住民投票実施

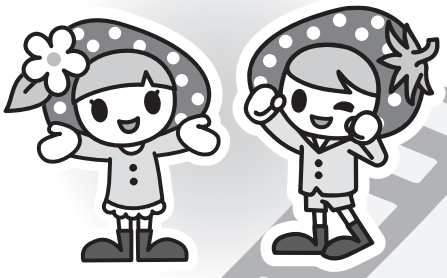
投票総数	4,951票
反　対	2,958票
賛　成	1,936票
無　効	57票

2009年（平成21年）

村発足135年
記念式典開催

2013年（平成25年）

リニア中央新幹線
ルート発表
阿島北の通過決定



2014年（平成26年）

三遠南信自動車道
飯喬道路3工区
村内工事着手

2020年（令和2年）

国勢調査人口
6,000人を割る

新型コロナウイルス感染症
緊急事態宣言発令

2021年（令和3年）

村会議員選挙
定員割れ

2075年

村発足200周年

20XX年

三遠南信自動車道
飯喬道路開通

リニア中央新幹線
開業

2024年（令和6年）

喬木村発足150周年記念式典
150周年記念
“美し郷”喬木まつり開催

総務産業建設常任委員会

委員長　佐藤　文彦

本定例会において、総務産業建設常任委員会への付託議案はなく、委員会協議会として、諸課題についての今後の対応と、県への要望項目の検討を行った。

【県建設部長への提言活動　令和６年12月12日】

１、一般県道上飯田線　阿島橋の架け替え及び小川･下氏乗間の拡幅改良整備促進

２、主要地方道下条米川飯田線　富田バイパスから国道256号間の拡幅改良整備促進

３、主要地方道下条米川飯田線　県道下久堅知久平線交点から弁天橋間の拡幅改良整備促進

４、一級河川　壬生沢川河川改修整備促進

《県建設部からのコメント》

１、三遠南信自動車道へのアクセス道路として重要な路線。今年度調査費が付いているが、具体的には中長期的な観点で阿島橋を含めた喬木村役場から国道153号線の間の道路整備のあり方を検討。小川･下氏乗間は急峻な地形で改良が難しい。現道をいかに安全に通行できることが最優先。災害復旧工事は今年度終了。早期通行可能となるよう取り組んでいく。

２、富田バイパスの工事を優先。現工事の進捗を図っていく。

３、今年度、地質調査を実施。Ｒ４年度事業着手。Ｒ５道路設計を進めている。現地作業は来年１月以降予定。事業進捗を図る。

４、要望区間は護岸の老朽化がみられることから、空石積護岸からコンクリート護岸に変える積替えを実施。引続き堆積土除去、支障木伐採を計画的に実施していく。

予算決算常任委員会

委員長　小川原 美智穂

令和６年第４回定例会において、本委員会に付託された議案第58号から議案第63号までの議案につき、令和６年12月11日に委員会を開催し、審査を行った。10件の質疑と総括質疑があり、討論はなく、採決の結果、６議案全て、原案のとおり、可決すべきものと決定した。

主な質疑

Q　県道上飯田線
上飯田線の公告が新聞に載っていたが詳細は。

A　12月６日に公告した業務の事業内容は、国道153号座光寺交差点付近から天竜川を渡り喬木村役場までの３kmの概略設計となる。

Q　今年、県で阿島橋の調査費1,500万円が提示されていたが、その関係か。

A　阿島橋の架け替えを含んだ業務の道路の概略設計の発注業務になる。

Q　景観形成事業
中原の森林整備は、当初３年計画だったが、残りの期間で全て完了するのか進捗状況と今後の予定は。

A　今、事業の見積を取っているが、森林整備の単価も上昇しており、予定よりも量が少なくなってしまうと思う。３年間では終わらないと考えている。

Q　伊久間原･城原からも同様の要望がある。中原が済み次第進めて行ってもらえるのか。

A　修景林間整備は、森林環境譲与税を財源に充てている。実証していく中で、経過を見ながら検討していく。

Q　県道大島阿島線
加々須地籍に土嚢が積みっぱなしでそのままストップしている事案があった。進捗状況は。

A　法面の補修工事の件は、用地は買収済みである。詳細設計まで完了している。今現在予算要求をしており、予算が着き次第、工事に着手していきたいと県に確認した。

Q　特定空き家除却
郭の公費解体のその後の流れは。

A　あくまで個人所有である危険な家を村が代わりに解体する工事になる。解体後の扱いは、所有者不明土地管理制度を活用し、土地建物の管理を行う管理人により売却して貰う。

Q　予算で解体費用は、700万円。国庫補助が半分。売却できた場合、費用を回収できる見込みがあるか。どう想定しているか。

A　特定空き家に認定した令和元年度に県の空き家等対策支援専門家派遣事業を活用して土地の調査を行っている。仮にその金額で売れたとすると元は取れる。

村内で新たに開業する医師などに対する支援について

小川原　美智穂　議員

Q 村内で新たに医療施設を開設する医師などに対して、金銭的支援を事業化するつもりがあるか。

A 補助制度創設による一定程度の宣伝効果があることは理解するが、診療科目によって必要な経費が大きく異なること、条件に合致さえすれば補助を出す必要があることなどから、村にとって良いのか悪いのかの判断が難しい。補助制度をあらかじめ設けず、医師を確保した上で、村としてできる融資や助成を考えた方が現実に即した方法かと思う。

■年収103万円の壁の見直しについて

旧「喬木カントリークラブ」の跡地利用について

後　藤　澄　壽　議員

Q 今後、旧「喬木カントリークラブ」の跡地利用をどのように進めていくのか。

A まず、村が整備した後、事業を運営してもらえる業者を探した結果、中原の共創施設とあわせて、旧「喬木カントリークラブ」を観光宿泊事業の拠点として運営していただく民間企業に目途がついたので、令和７年に地権者との交渉などし、令和10年には施設の運用が開始できるようにしたいと考えている。

■「子ども家庭センター」について

■高校生に対する支援について

地域おこし協力隊の現状と課題について

木　下　温　司　議員

Q 協力隊の地域とのかかわり、2タイプの協力隊の活動、退任後の定住、起業等について伺う。

A 今年度、委託型と会計年度任用職員としての隊員の、2つのタイプの地域おこし協力隊が活動しているが、成果と活動状況が見えてこないとの声を聴く中、年度末には、活動報告会も計画する。今までのような一方的な報告でなく、住民との対話型の報告会にしたい。また今年度6名の隊員が退任するが、農業分野の隊員については、定住に向け準備を進めている。

災害時の良好な生活環境確保について

福　澤　一　成　議員

Q 6月に国の防災基本計画が修正され、自治体へのキッチンカー、トイレカー等の配備に向た国の支援と、本村の対応は。

A 村では、避難所の環境改善について、携帯･仮設トイレ、段ボールベットの一定数の備蓄の他、トイレ、ベット等の調達について災害時応援協定を締結し備えている。今回創設の「新しい地方経済･生活環境創生交付金」は、被災者の良好な生活環境を確保する先進的な取り組みに対しての措置が含まれており、国の動向を注視し、今後検討する。

■孤立地域への救援物資輸送

■災害時のネット・空調・洋式トイレ整備

150周年を迎えた喬木村の新たな方向性について

佐　藤　文　彦　議員

Q 150周年を迎え、改めて住民自治の共通認識を住民一人ひとりと共有する必要があると考える。村の見解を伺う。

A 「喬木村発足150周年記念宣言」を、様々な場面で住民の皆さんと共有する機会を設け、今後進める第６次総合計画策定において、住民参画と協働による長期計画を策定することで「住民・地域・行政」のそれぞれの役割分担を再認識し、時代にあった住民自治の推進のため共に取り組んでいく。

■自立後の総括について

■少子化の中で新たな教育環境の整備について

介護保険住宅改修･福祉用具購入での受領委任払いの導入は

福　澤　眞理子　議員

Q 介護保険の住宅改修・福祉用具購入は償還払いとなっている。利用しやすくなるよう受領委任払いの制度の導入は。

A ケアプラン点検を通じて、評価や確認から住宅改修や福祉用具購入は、住み慣れた自宅で暮らし続けるために有効だと考えている。制度の導入にあたり、村の負担はそれほど大きくないと見込む。足並みを揃えることが効果的と考え、制度導入についてサービス提供事業者や近隣自治体とも協議、検討していく。

議会かつどう・アレ・これ

9月定例会以降行われた、議員活動についてピックアップしてお伝えします。村主催のイベントなど、様々な活動を行ってきました。議員活動の様子を少しでも知っていただけたらと思います。尚、12月定例会については、各委員会のページにて報告します。

10月

保育園運動会
令和6年10月5日（土）
たかぎ保育園、南保育園で同時開催

南保育園運動会

県建設事務所 村内要望箇所視察
令和6年10月9日（水）
午後1時30分～5時
視察終了後議場にて要望活動

県建設事務所村内要望箇所視察

行政視察
令和6年10月18日（金）
午前9時～10時30分
南伊勢町議会の視察対応

令和6年度 飯伊市町村議会議員研修会
令和6年10月31日（木）
午後1時～3時15分
「人口減少と地域社会・地方議会」
講師：高荷　智也氏

11月

第19回長野県地方自治政策課題研修会
令和6年11月12日（火）YouTube配信にて研修
「地域防災・減災力をどう底上げするか？
～産官民の役割について考える～」

社文・教育関係者懇談

モニター懇談会
令和6年11月15日（金）午後7時～9時

社文・教育関係者懇談
令和6年11月22日（金）午後3時30分～7時

夕焼け祭
令和6年11月24日（日）午後1時～4時
「読書感想文コンクール表彰式及び記念講演」

夕焼け祭

農村RMO県政出前講座
令和6年11月25日（月）午後1時30分～3時
「農村RMO」について

地域活性化講演会
令和6年11月27日（水）午後6時30分～8時
「リニア駅中心地域の振興について」講師：三浦　清洋氏

12月

二小祭
令和6年12月4日（水）
午前9時30分～11時50分
子供たちの研究発表と音楽発表

農村RMO県政出前講座

社会文教常任委員会

委員長　福澤　眞理子

子育ての拠点に　こども学遊館

◎子ども家庭センター　子育て相談窓口

…… **11月18日より稼働**

どこにできたの？　学遊館の続きの建物、入口は芝グランド側。

何をするところ？　妊娠・出産から子育て、何でも相談窓口。子どもに関する心配事や困りごと・親の悩みや困りごと、どんな小さなことでもお話をお聴きし、一緒に考えるところ。

どうやって利用するの？　一報入れればよし。覚悟が決まらなかったら、学遊館にぶらっと行って様子を見てからでもよし。専用の相談室あり、相談の秘密は守られます。

●こども学遊館を使いやすく、の願いに

①子ども家庭センターのたもくてき室の活用で、まだ限定的だが子育てひろばが午後４時まで利用可能に。利用できる日は村ホームページなどで確認を。子育て世代の保護者の方から『午後２時で小さい子の利用は閉じられる。午後の時間も利用したいときがある』と要望があった。児童クラブとの兼ね合いもあり、少しずつ利用日を増やしていけるよう検討している。利用しているおかあさん、「ありがたいです」と。

②分散していた児童クラブの学習室も確保でき、指導・見守りの負担も軽減。それでも人数が多くなる日は課題が残る。

教育関係者との懇談会から　　11月22日（金）開催

Ⅰ．地域を知る・地域から学ぶ「喬木村の教科書」作成/活用について概要を視聴

子どもたちが村や地域を知る手がかりになり、さらに探求していくことで、ふるさと喬木村への思いを育むことにつなげる。喬木村を知らない、喬木村に赴任する先生に喬木村を知ってもらうことにも活用する。

喬木村の教科書は紙の本でなくデジタルで作成。新しい情報の追加、改定ができる。また新しい内容も加え、分野を広げていく。

Ⅱ．喬木村の子どもの現状

第一小　２・４年生が単級。出生数からみると令和10年度から全学年で単級になっていく

第二小　児童数の減少、教員も減に。県の加配があり教員は5人。数年5人が続く。令和10年度には教員は4人になる。（加配前提）

南保育園　全体で15人。（区外から4名在園）来年度入園児なし。現状のままだと令和10年には入園する園児がいなくなる。

Ⅲ．地域の人から学ぶ

・お囃子・獅子頭の動かし方を学び音楽会で発表。（第一小）
・地域の人とのかかわりが広がっている。（地域から）
・赤石紅にんにくを一緒に植え付け、収穫も予定。（第二小）
・学年ごとに課題を探求。3年生は村への提言を予定。地域の企業で職業体験。（中学校）
・2年目のたかぎ保育園。やまほいく認定園に。地域とのつながりを模索している。
・地域ボラの協力、いろんな年代の人との関係がもてる。給食も地産地消で地域との繋がりを深める。（南保育園）

―懇談を終えて―

子どもたちは地域の中で育つものであるが、少子化の中、喬木村も厳しい現実がある、様々な学校のあり方を学んで村民の皆さんに現状を情報として知らせていくことが重要だと思う。喬木の子どもたちにとって何が一番いいか誰も答えはもっていない。まずは現状を共通認識にしていくことが必要と感じた。

特集

私たちの飲料水

蛇口を開けばすぐに間に合う水、当たり前のように供給されていますが、もし水が止まってしまったら私たちの生活は混乱してしまいます。住民に支障なく供給できるよう担当部署は24時間体制で監視、漏水事故にも素早く対応しています。

喬木村の水道事業の現状（令和5年度決算報告より抜粋）

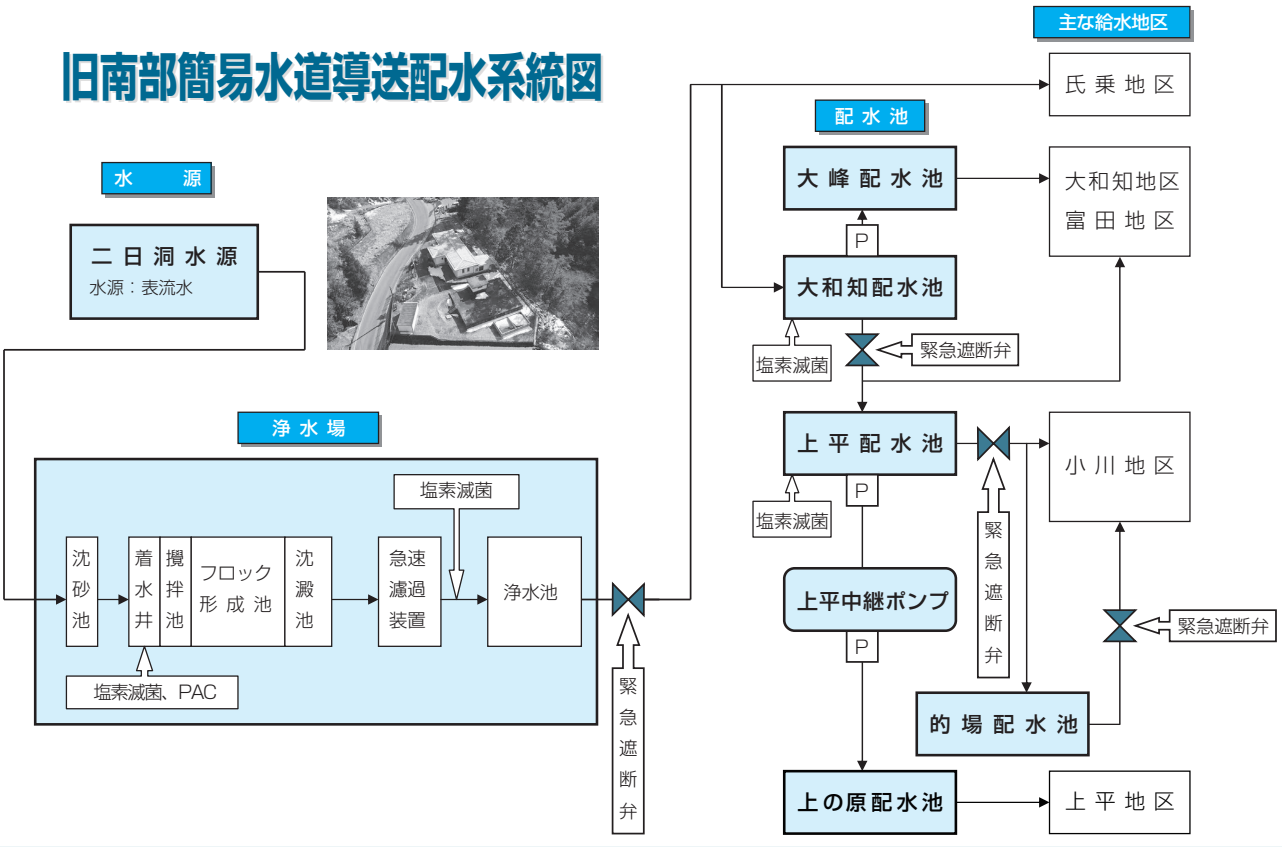
老朽化の状況について

村では、平成25～28年度にかけて統合簡易水道事業を行い、国庫補助金を活用しながら老朽化した施設、設備、管路の更新を行っているが、耐用年数を迎え増加傾向にある。管路については法定耐用年数は40年であるため、今後耐用年数を超過する管路が増えてくるが、更新については経営戦略では70年ほどを目標に設定している。

全体総括

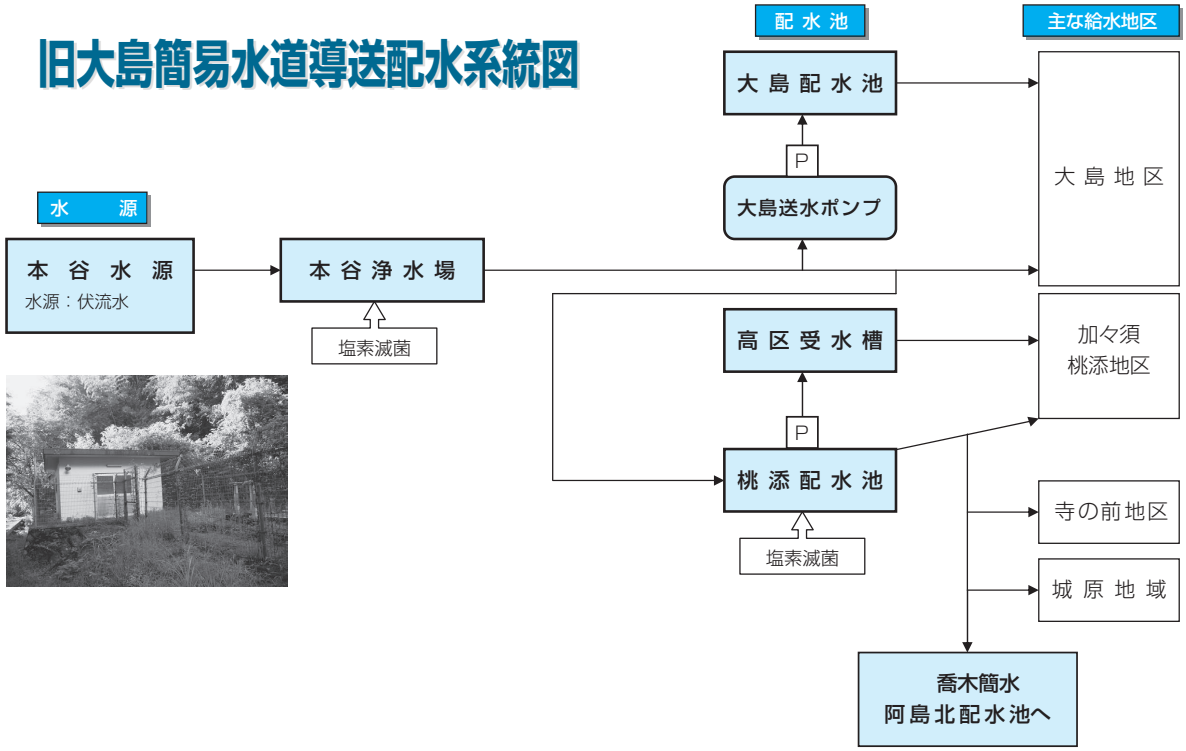
村営水道事業が始まり40年近い年月が経過しており、その間下水道管布設時に布設替えを行った箇所もあるが、今後は耐用年数を迎える施設等の更新が課題となってくる。経営状況を把握した上で設備更新に優先順位を付けながら、計画的に行っていくことが必要と考えている。
村では、今後水需要も人口減少とともに減ってくると考えられることから、維持管理費用、老朽化した施設の更新費用等を捻出できる料金設定を行っていくことも考えなくてはならない。

旧南部簡易水道導送配水系統図

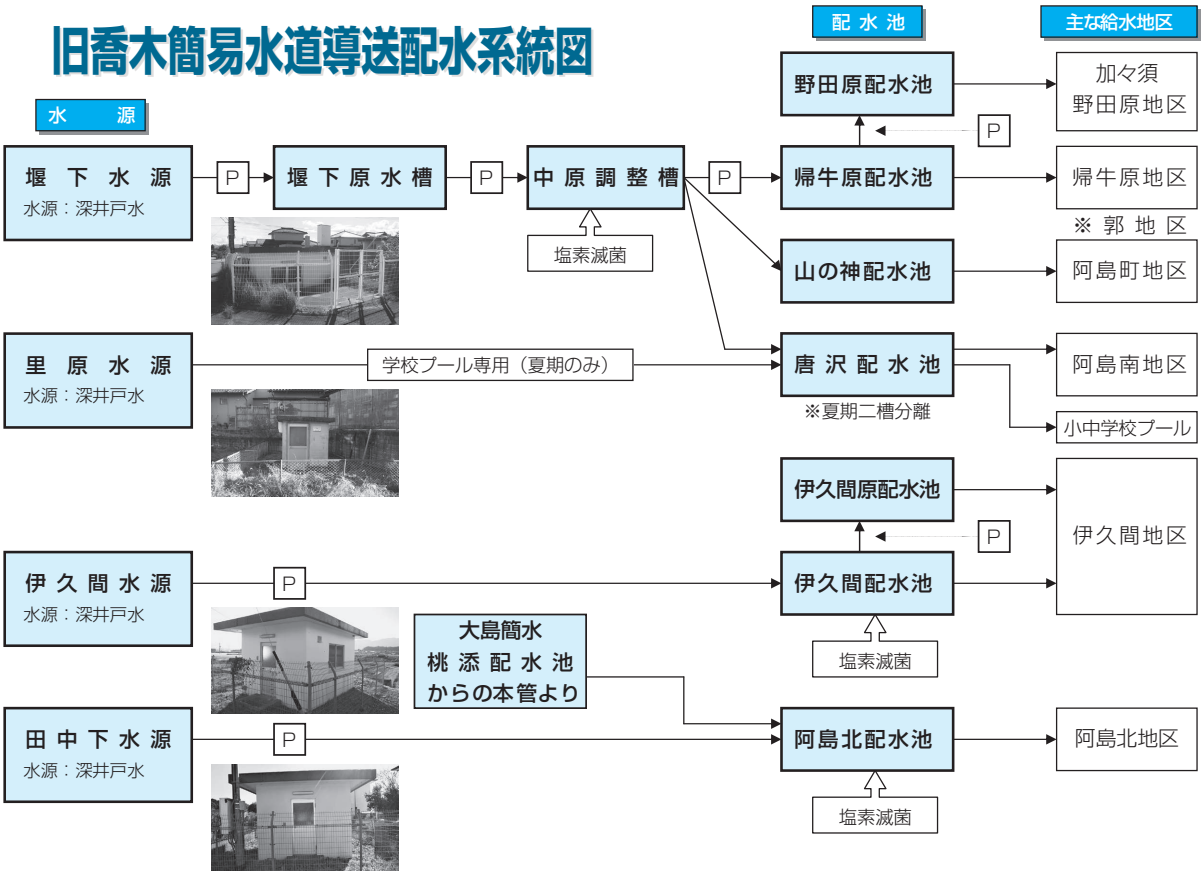


はどこから来るの？

旧大島簡易水道導送配水系統図



旧喬木簡易水道導送配水系統図



※Pはポンプ

この村で がんばってます!!

ho菜mi farm

池　上　穂　波

新年、あけましておめでとうございます。

喬木村で就農し、ho菜mi farmを始めてもうすぐ２年が経とうとしています。4人の子ども達と整体の仕事をしている旦那さんにも手伝ってもらいながら、夏はズッキーニ、冬は干し柿と干し芋を作り、出荷しています。

ビーバーでの草刈りもしたことのなかった私ですが、農家を始めてからは、チェンソー、ドリル、動噴、トラクター、小型バックホーを扱うようになり、中古ハウスの解体、移築、柿干棚作りも経験しました。初めてのことに挑戦するのは楽しいですね。ですが途中でうまくいかず、嫌になってしまうこともありました。その度に周りの農家さんから声をかけてもらい、手を差し伸べ、たくさんの知恵を授けてくれました。おかげで農業を続けられています。

私の柿のれん

今年は、水耕トマトや無燻蒸の干し柿も作って販売できるように計画中です。その次はドライフラワーも作ってみたいな～と、やってみたい事はたくさん。ひとつひとつチャレンジしていきたいと思います。

今年も皆様にとって、良き一年となりますように。

H.OWL.K473
インスタも見てね！

― 南信州広域連合議会より ―

- 飯田創造館閉館に伴い、新たに文化芸術の場として、旧地場産業センターに、令和７年４月オープン予定
- 高森消防署が「かわまちづくり賑わい拠点」へ移転新築されます。令和８年４月共用開始予定

第4回定例会 一般質問

YouTube

見てネ!

議　会　日　誌

12月

5日　令和６年第４回定例会開会
　　全員協議会・議員全員協議会
11日　各常任委員会
14日　一般質問
18日　定例会閉会・議員全員協議会

今後の予定

1月

20日(月)全員協議会・議員全員協議会
31日(金)北部ブロック議員研修会・総会

2月

未定　全員協議会・議員全員協議会
14日(金)議会モニターとの懇談会(予定)

3月

4日(火)令和７年第１回定例会(予定)
　全員協議会・議員全員協議会(予定)
11日(火)各常任委員会(予定)
13日(木)予算決算常任委員会(予定)
15日(土)一般質問(予定)
21日(金)定例会閉会・議員全員協議会(予定)

あとがき

「十年後、喬木村に帰ってきていると思います」

小学生代表の児童会長さんが、百五十周年記念式典で、頼もしい意見発表をしてくれました。

「喬木村という名前がなくなるのは悲しいです」

十年前、ある中学生が、意見発表しました。こうした子どもたちの声もあって、喬木村は住民投票で自立を選択しました。

「喬木村に帰ってきてよかった」

と、子どもたちに言ってもらえる村にしていかなくてはと、決意をあらたにしました。

（後藤澄壽）

編集委員会

委員長　福澤　一成
副委員長　小川原美智穂
委員　松村　光洋
委員　後藤　澄壽
委員　木下　温司